

日本文化界呉昌碩関連年表

The chronology of relationship between Wu Changshuo and the Japanese literati

松村 茂樹¹¹大妻女子大学文学部コミュニケーション文化学科Shigeki Matsumura¹¹Department of Communication and Culture Faculty of Language and Literature, Otsuma Women's University
12 Sanban-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan 102-8357

キーワード：呉昌碩，日本文化人，関係年表

Key words : Wu Changshuo, Japanese literati, Chronology of relationship

抄録

詩書画印四絶をもって「中国最後の文人」と称せられる呉昌碩（1844－1927）は、多くの日本人と交流している。本資料は、これらを年表形式にまとめたものである。この年表により、当時の日中文化交流の重要な側面に照明をあて得ると思われる。

なお、この年表は、「日本文化界呉昌碩関連年表（稿）」として、拙稿「呉昌碩と日本文化界」（『書論』37号・2011, 3, 31・書論編集室 所収）に附したものに、その後の知見により、補足訂正を加えたものである。

1878 以降	円山大迂（名は真逸，1838－1916・篆刻家）訪問	1903.12	家）訪問 長尾雨山（名は甲，1864－1942・漢学者）上海移住
1883	北方心泉（名は蒙，1850－1905・僧侶）嘱画	1904	江上瓊山（名は景逸，1862－1924・画家）訪問
1891 以前	岸田吟香（名は銀次，1833－1905・記者，実業家）会遇	1905 頃	長尾雨山訂交（劉炳照との関係から）
1891	日下部鳴鶴（名は東作，1838－1922・書家）訂交，嘱印	1907	白石六三郎（号は鹿叟，1868－1934・実業家〈六三園主人〉）六三花園開園
1897	桑名鉄城（名は箕，1864－1938・篆家）訪問	1910	橋本海関（名は小六，1853－1935・漢学者）訪問
1897.12	山田寒山（名は潤子，1856－1918・篆刻家）訪問	1911.4	阿南竹垞（名は衡，1865－1928・画家）訪問
1898.2.24	河井荃廬（名は仙郎，1871－1945・篆刻家）文通	1912	長尾雨山嘱書（愛而近路で近隣関係に）
1899	北方心泉訪問	1912	北大路魯山人（名は房次郎，1883－1959・芸術家）訪問
1899.3	石川舜台（号は節堂，1842－1931・僧侶）嘱印	1912	三村竹清（名は清三郎，1876－1953・書誌学者）嘱印
1900	河井荃廬，田中慶太郎（号は救堂，1880－1951・実業家〈文求堂書店主人〉）訪問，河井荃廬入門（以後ほぼ年訪問）	1912	佐藤進（号は茶崖，1845－1921・医学者）嘱印
1903.4	山本竟山（名は由定，1863－1934・書家）訪問	1912 秋抄	岡倉天心（名は覚三，1863－1913・美術家）嘱書（長尾雨山の贈品）
1903.4	滑川澹如（名は達，1868－1936・書	1912.12.15	田中慶太郎編『昌碩画存』（田中慶太郎）発行

- 1912 歳末 田口米舫（名は茂一郎，1862—1930・書家）嘱書
- 1912 頃 松崎鶴雄（号は柔父，1868—1949・漢学者）訂交（長尾雨山の紹介）
- 1913 川喜田半泥子（名は久太夫政令，1878—1963・実業家，陶芸家）
- 1913.6 伊藤鴛城（名は謙，1864—1936・漢詩人）訪問
- 1913.6.12～7.8 第五回健筆会展観会（呉昌碩出品，夏目漱石参観）
- 1913.7.19 高瀬惺軒（名は武次郎，1868—1950・漢学者）訪問
- 1913 秋 内田栄四郎（1866？—1937・実業家〈富貴楼主人〉）嘱画
- 1913 秋 杉山吉太郎（1859—1925・実業家〈迎陽亭主人〉）嘱画
- 1913.9 安田伊太郎（実業家〈皆花園主人〉）嘱画
- 1913.10 山際柳隄（名は操，1852—1937・実業家〈新潟県農工銀行頭取〉）嘱画
- 1913 冬 柚木玉邨（名は方啓，1865—1943・画家）嘱印
- 1913.12 犬養毅（号は木堂，1855—1932・政治家）嘱印（長尾雨山の仲介）
- 1913 頃 土屋計左右（1888—1973・実業家〈三井銀行上海支店長〉）訂交
- 1914.9 白石六三郎，呉昌碩個展開催（於六三園）
- 1914.9 友永霞峰（名は伝次郎，実業家〈虚明軒主人〉）呉昌碩個展案内
- 1914.10.16 呉昌碩「六三園記」撰書
- 1915.2 小栗秋堂（名は元直，画家）嘱文
- 1915 冬仲 本多伊久男（実業家〈酒造業〉）嘱画
- 1915.12 白岩龍平（号は子雲，1870—1942・実業家〈日清汽船株式会社創設者〉），白岩艶子（1880—1959・歌人）会见（於六三園）
- 1916 水野疎梅（名は元直，1864—1921・書家）訪問
- 1916 夏日 橋本末吉（室号は師古軒，1902—1991・実業家）嘱書
- 1916 初秋 橋本関雪（名は関一，1883—1945・画家）嘱書
- 1917 春仲 富岡謙蔵（号は桃華，1873—1918・考古学者）嘱書画
- 1917.3 富岡鉄斎（名は百錬，1837—1924・画家）嘱印嘱書（長男・謙蔵が訪問）
- 1917 孟夏 内藤湖南（名は虎次郎，1866—1934・漢学者）嘱印
- 1917 孟夏 山本悌二郎（号は二峯，1870—1937・政治家，収蔵家）嘱印
- 1917.9.20 谷上隆介編『呉倉碩画牘』（飯田呉服店美術部）発行
- 1917 孟冬 有吉明（1876—1937・外交官〈上海総領事〉）嘱書
- 1917 竹内直哉（号は誠軒，？—1924・実業家〈日清汽船株式会社社長〉）会见，唱和
- 1917.11.14 徳富蘇峰（名は猪一郎，1863—1957・評論家）会见
- 1918 初春 西園寺公望（号は陶庵，1849—1940・政治家）嘱書
- 1918.4.19 児島虎次郎（1881—1929・画家）訪問
- 1918.4 村雲大樸子（名は毅一，1893—1957・画家）訪問
- 1918 秋孟 後藤朝太郎（号は石農，1881—1945・言語学者，著述家）会见，嘱書
- 1918 頃 坂東貫山（名は晴吉，1887—1967・画家，蔵硯家）訂交
- 1919 初春 西園寺公望会见（於六三園），嘱印（橋本独山の影響）
- 1919.1.26 萩野由之（号は和葦，1860—1924・史学者）会见（於六三園）
- 1919.3 萩井晴霞（名は陸三郎，1859—？・茶道家〈煎茶文雅流家元〉）嘱画
- 1919.6 塩谷青山（名は時敏，1855—1925・漢学者）嘱印
- 1919.8.10 田口米舫編『缶廬臨石鼓文全文』（田口米舫）発行
- 1919 晚秋 山田正平（号は一止廬，1899—1962・篆刻家）訪問（河井荃廬に同行）
- 1919.11.29 浅見又蔵（号は慶雲，1876—1953・実業家〈近江豪商二代目〉），林新兵衛（1860—1924・実業家〈林新兵衛商店主人〉），宮崎平七（1874—1946・実業家〈家具宮崎三代目社長〉）訪問
- 1919 今関天彭（名は寿麿，1884—1970・中国文芸研究家）訪問

- 1920.1.8 大谷是空(名は藤治郎, 1867-1939・評論家) 会見
- 1920 夏 朝倉文夫(号は紅塚, 1883-1964・彫刻家) 作品交換
- 1920.5.5 田中慶太郎編『吳昌碩画譜』(文求堂書店) 発行
- 1920.5 (旧) 大村西崖(名は峰吉, 1868-1927・美術史家) 嘱画
- 1920.7.24~26 吳昌碩作画展(於長崎県立長崎図書館) 入場者 1,394 人
- 1920 秋 林源吉(号は双樹園, 1883-1963・郷土史研究家〈長崎史談会幹事〉) 訪問, 嘱画
- 1920 小室翠雲(名は貞次郎, 1874-1945・画家), 後藤朝太郎会見
- 1920 孟冬 会津八一(号は秋艸道人, 1881-1956・歌人, 美術史家, 書家) 嘱書
- 1920.12.30 林源吉編『吳昌碩先生画帖』(双樹園) 発行
- 1921 芥川龍之介(号は澄江堂主人, 1892-1927・小説家) 訪問
- 1921.5.1 日支書画展覧会(吳昌碩出品, 於両国東京美術倶楽部)
- 1921 夏仲 楠瀬日年(名は恂, 1888-1960・篆刻家) 訪問, 嘱書
- 1921.7~10 井土靈山(名は経重, 1855-1935・文筆家, 漢詩人), 小室翠雲訪問
- 1921.7 三世北川蝠亭(名は藤之介, 1884-1937・篆刻家) 訪問
- 1921 秋仲 柴田六次(1881-1960・医師〈柴田眼科医院〉) 嘱書
- 1921.10 谷上隆介(号は撰山・実業家〈高島屋美術部部长〉) 訪問
- 1921.10.31 田口米舫編『吳昌碩書画譜』全2冊 発行
- 1921 冬 円山凌秋(名は惇一, 大迂嗣子, 生没年未詳) 嘱題
- 1921.12.3 池田桃川(名は信雄, 1889-1935・記者〈読売新聞上海特派員〉) 著『上海百話』(日本堂) 発行(「吳昌碩先生」の章あり)
- 1921 末 柚木玉邨, 田辺碧堂(名は華, 1864-1931・漢詩人) 会見, 合作
- 1921 以降 清水董三(号は東翠, 1893-1970・外交官, 中国研究家) 会遇
- 1922.2.18 谷上隆介編『缶翁墨戲』(高島屋呉服店美術部) 発行
- 1922.2.19~23 吳昌碩書画新作展(於大阪江戸堀高島屋美術部)
- 1922.5.2~15 日華聯合絵画展覧会(吳昌碩出品, 於東京商工奨励館)
- 1922 冬十月 頓宮寛(1884-1974・医師〈上海福民病院院長〉) 嘱画
- 1923.4.6 大村西崖会見
- 1923.12 以降 吉川雄輔(号は山中学人, 1933に還暦・実業家〈漢冶萍煤鉄鋼廠有限公司会計顧問〉) 訂交
- 1923 頃 佐久間貞次郎(号は東山, 1886-1979・中国イスラム学者) 会見(哈少孚の紹介)
- 1924.11 西湖に関する書画展覧会(吳昌碩出品, 於大阪長堀橋高島屋美術部)
- 1925 小笹喜三(号は燕安居, 1896-1979・書跡研究家〈陽明文庫主事〉) 訪問(長尾雨山の紹介)
- 1925 春橋本関雪会見, 贈詩
- 1925.4.27 池上秀畝(名は国三郎, 1874-1944・日本画家) 会見, 嘱書画
- 1925.12.15 堀喜二編『缶翁近墨(缶翁墨戲二集)』(高島屋呉服店美術部) 発行
- 1925.12 吳昌碩先生新作書画展覧(於東京京橋高島屋美術部)
- 1925.12.21~25 吳昌碩先生新作書画展覧(於大阪長堀橋高島屋美術部)
- 1926 高島菊次郎(号は槐安, 1875-1969・実業家) 嘱書
- 1926 冬 大倉喜七郎(号は聴松, 1882-1963・実業家〈大倉財閥第二代総帥〉) 嘱印
- 1926.11 清浦奎吾(号は奎堂, 1850-1942・政治家) 会見(於六三園)
- 1926.12.12 日本書道作振会第二回展覧会(吳昌碩出品, 於東京府美術館)
- 1927 元旦 吉井民三郎(実業家〈綿花仲売業吉井民三郎商店主〉) 嘱書
- 1927.6.11~13

- 呉王書画展覧（於大阪毎日新聞本社
楼上）
1927.7.12 大倉喜七郎会见
1928.1.22～26 呉昌碩遺墨展覧会（於大阪長堀橋高
島屋美術部）
1928.1.5 堀喜二編『缶翁遺墨紀念冊』『缶廬遺
墨集』（高島屋呉服店美術部）発行
1928.3 呉昌碩遺墨展覧会（於東京京橋高島
屋美術部）
- ・訪問
村田蔚堂（名は謫・篆刻家）
飯田秀処（名は辰，1892－1950・篆刻家）
西晴雲（名は和作，1883－1963・画家）
伊賀上雄鳳（名は静雄，1895－1948・画家）
・囑印
中村不折（名は鉦太郎，1866－1943・画家，書家）
前田黙鳳（名は円，1853－1918・書家）
藤山雷太（号は雨田，1863－1938・政治家）

[年表外の呉昌碩関係者]

- ・上海在住邦人
土井伊八（1867－？・実業家〈輸出業瀛華洋行主〉）
武居綾蔵（1870－1932・実業家〈内外綿株式会社
頭取〉）
米里紋吉（実業家〈上海日本商工会議所会頭〉）

付記

本資料は、平成 26 年度大妻女子大学戦略的個人研究費（研究課題「呉昌碩と日本文化人」、課題番号：S2638，研究代表者：松村茂樹）による成果の一部である。

Abstract

Wu Changshuo (1844-1927) is called "The last literati in China". As the traditional Chinese literati, he was able to write poems, paint painting, produce calligraphies and seal engravings. He interacted with a lot of Japanese personages. This material is the chronology of those communications. It could show us the important aspect of the cultural exchange between Japan and China.

Further, this chronology was included in my article, "Wu Changshuo and The Japanese Cultural World" Journal of Shoron #37 (2011), as "The Draft of The Chronology of Relationship between Wu Changshuo and The Japanese Literati"; I corrected it and added some complements by my latest findings this time.

(受付日：2016年3月22日，受理日：2016年3月31日)

松村 茂樹(まつむら しげき)

現職：大妻女子大学文学部コミュニケーション文化学科教授

筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科中退 博士（文学，筑波大学）

専門は中国文化論，アジア太平洋国際交流論。2015年4月より2016年3月まで，ボストン大学客員研究員として，米国ボストンに滞在。ボストン美術館に掲げられている呉昌碩「与古為徒」扁額は，ボストン美術館東洋部長を務めた岡倉天心の友人で，当時上海で呉昌碩と隣人関係にあった長尾雨山が美術館に贈ったものであることを考証し，ボストン大学アジア研究センターで発表するなど，当時の日中文化交流研究を進めている。

主な著書：

書を考える－書の本質とは(単著，二玄社) 呉昌碩研究(単著，研文出版) 呉昌碩談論－文人と芸術家の間－(単編，柳原出版) 書を探る－王羲之から書教育まで(単著，アートダイジェスト) 近代中国の文化人と書(単著，研文出版) 鄭板橋(共著，芸術新聞社) 傅山(共著，芸術新聞社) 遺老が語る故宮博物院(共訳，二玄社)